

1 学校教育目標

たくましく がんばる子

- 自ら考え 進んで学習する子ども
- 思いやりのある 心豊かな子ども
- じょうぶで たくましい子ども
- まじめに 進んで働く子ども



2 学校経営の方針

◎ 確かな学力の定着と向上(基礎・基本の定着, 活用する力, 学習習慣 ICT の有効活用)

◎ 自立した人間の形成(気づく, 考える, 実践する)

(1) 知・徳・体の調和と「生きる力」の育成を目指し、児童や地域の実態に即した適切な教育課程の編成と実施に努める。

- ① 社会に開かれた教育課程の編成に努める。
- ② 郷土学習を教育活動に適切に位置づけ、ふるさとを愛し、誇りに思う児童の育成に努める。
- ③ 教育活動全体を通して、体系的なキャリア教育の理解と推進に努める。
- ④ 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を目指した特別支援教育を推進する。

(2) 意欲的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力の定着に努める。

- ① 確かな学力の定着と向上に向け、授業改善を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの学習に努め、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努める。
- ② 個に応じた指導方法の工夫・改善に努め、体験的な活動や言語活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を通じて思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- ③ 家庭学習と授業を有機的に結びつけ、計画的・継続的に学習に取り組む意欲・態度を養う。
- ④ GIGA スクール構想のもと、1人1台端末の効果的な活用に努め情報活用能力の育成に努める。

(3) 望ましい人間関係を育成し、人間としての生き方の基礎を培う生徒指導に努める。

- ① よりよい人間関係及び信頼関係を育てる土台となる学級経営を充実し、課題を共有し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- ② 共感的な児童理解や心の居場所づくりに努め、望ましい集団活動を通して心の触れ合いを深め、自己有用感や所属感を持つことができるよう一人一人のよさや可能性を生かすように努める。
- ③ 教育活動全体を通して、道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めたり、豊かな体験活動を通したりして、人間としてよりよく生きていく道徳的実践力の育成に努める。
- ④ 読書活動や文化芸術活動を通して、豊かな感性を育てる。

(4) 健康・安全教育の充実に努めるとともに、健康保持・体力向上のため、運動の日常化を図る。

- ① 危険予測・回避能力を育み、「自分の命は、自分で守る」行動のとれる子どもを育てる。
- ② 体育活動を積極的に推進し、運動の日常化を図ることによって、体力向上の基礎を培う。
- ③ 食に関する指導の充実に図り、進んで健康で安全な生活を送ることができる実践力を育てる。

(5) 開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域から信頼される学校づくりに努める。

- ① 全教職員共通理解のもと、師弟同行、協働体制で教育目標の具現化に努める。
- ② 教職員が互いに信頼し合い、協調し合いながら、しなやかな活気ある学校づくりに努める。
- ③ 保護者・地域住民等からの意見や要望を聞く姿勢をもち、学校評価の結果公表をはじめ、積極的に情報発信を行い、開かれた学校づくりに努める。
- ④ 家庭・地域社会との連携を深め、協力体制の充実に努めるとともに、地域の教育資源(ひと・もの・こと)を生かした教育に努める。